

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護管理と医療安全	1	30 時間 (15 回) ①20 時間 (10 回) ②8 時間 ( 4 回)	3 年次・前期	① 江籠 カエコ ② 木下 博子	
学習目標	1. 看護とマネジメントについて理解できる 2. ケアのマネジメントが理解できる 3. 看護サービスのマネジメントが理解できる 4. チームの一員としての自覚と責任について理解できる 5. 安全な看護を提供するための知識・判断力・倫理観を養う				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (江籠)	1. 人々の生活と看護	講義	10 回 (江籠)	3. 看護と専門機関・ 職能団体	講義
2 回 (江籠)	2. 看護管理過程	講義	11 回 (木下)	4. 保健医療福祉政策の動向	講義
3 回 (江籠)	3. 患者の権利擁護と 看護倫理	講義	12 回 (木下)	1. 医療安全と看護の責務	講義
4 回 (江籠)	4. 安全管理体制	講義	13 回 (木下)	2. 医療安全施策と医療の質 の評価	講義
5 回 (江籠)	5. 看護実践の評価と改善	講義	14 回 (木下)	1. 事故発生メカニズム	講義
6 回 (江籠)	6. 看護研究と実践への応用	講義	15 回	2. 事故分析、事故対策	講義
7 回 (江籠)	1. 人間関係を構築する技術	講義		3. 組織としての取り組み	講義
8 回 (江籠)	2. 組織の効率性を高める 技術	講義		4. 事故の原因分析と対策	講義
9 回 (江籠)	1. 組織の理解	講義		5. 患者、家族との協働	講義
	2. 看護部門の組織	講義		1. 看護業務と事故発生要因	講義
	3. 経営とは	講義		2. 医療事故の種類と 安全対策	講義
	1. 看護教育体系	講義		3. 医療事故後の対応	講義
	2. 看護職論	講義		4. 看護業務上の危険と 防止策	講義
	3. 看護専門職者と生涯教育	講義		まとめ 終講試験	試験
9 回 (江籠)	1. 看護と法令	講義			
	2. 看護と行政組織	講義			
評価 方法	筆記試験 100 点 ( ① 70 点 ② 30 点 )		教科書	ナーシンググラフィカ (メディカ出版) 看護の統合と実践①看護管理 看護の統合と実践②医療安全	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
災害と国際看護学	1	30 時間 (15 回)	3 年次・前期	藤原 裕	
学習目標	1. 災害の種類と特徴が理解できる 2. 災害看護の定義と特徴が理解できる 3. 災害の対応や対策が理解できる 4. 国際化と看護について理解できる 5. 国際援助や支援のあり方について理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 災害看護の定義	講義		3) 継続治療が必要な人	
2 回	2. 災害と倫理			4) 外国人	
	1. 災害の種類と 災害サイクル	講義		5) 遺族	
	1) 災害関連死		9 回	1. 被災者、支援者の	講義
	2) 災害サイクル		10 回	心理の理解と援助	講義
3 回	1. 災害医療に関する国の 施策	講義		1. 災害初期から中長期に おける看護活動	
	1) 防災計画と医療計画			1) 医療救護所、避難所、 応急仮設住宅、自宅避難 者、復興後	
4 回	2. 災害医療に関する法律	講義		1. 災害時に必要な医療・ 看護技術	講義
	1) 災害時の医療体制		11 回	1) トリアージ、応急処置	
	2) 被災者支援体制			2) 移送、搬送	
5 回	1. 災害に備えた事業 継続計画	講義		3) 災害教育	
	2. 災害時の組織体制		12 回	1. 国際看護とは	講義
	3. 連携と協働			2. 日本における国際看護	
6 回	1. 支援を必要とする	講義	13 回	施設見学	
7 回	要配慮者	講義	14 回	「地震および防火訓練」	施設見学
8 回	1) 乳幼児、子ども、妊産婦	講義			施設見学
	2) 高齢者、障害者		15 回	まとめ 終講試験	試験
評価 方法	筆記試験 100 点		教科書	ナーシンググラフィカ (メディカ出版) 看護の統合と実践③災害看護	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
卒業研究	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	中畑 千恵	
学習目標	1. 研究の意義が理解できる 2. 論文作成の方法や論理的な思考力を養うことの意味を理解できる 3. 卒業時の自己の看護に関する考え方をまとめることができる 4. 論文作成から発表の流れを理解することができる				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 研究とは	講義	12 回	1. 看護学会とは	講義
	2. ケーススタディとは			2. 看護学会の様子	
	3. 研究が看護にもたらす意味			3. 発表のスタイル	講義
2 回	1. 研究計画書の書き方	講義	13 回	1. 発表分科会	講義
	2. 文献とその活用法		14 回	2. 役割遂行	講義
	3. 今後の計画について				
3 回	1. 研究計画書作成	講義	15 回	ポスターセッションとは	講義
	2. 論文のまとめ方				
	1) 論文の構成要素				
	2) 基本ルール				
4 回	1. テーマの絞り方	講義			
	2. 文献の活用の仕方				
	3. 論文の指導の受け方				
5 回	1. 論文作成	演習			
6 回	2. 指導・修正	演習			
7 回	3. 指導を受ける姿勢や	演習			
8 回	態度	演習			
9 回		演習			
10 回		演習			
11 回		演習			
評価方法	レポート評価 100 点		教科書	看護のためのわかりやすい ケーススタディの進め方 (照林社)	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
総合看護技術論	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	中畑 千恵	
学習目標	1. 看護実践に必要なアセスメントを行い、状況に応じた看護技術について学ぶ 2. 複数患者の看護実践において優先順位を判断し、適切な行動を考えることができる 3. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践ができる能力を養う				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. チームでの連携と協働 1) 看護のマネジメント 2) 報告、連絡、相談、調整 3) チームの一員としての自覚と責	講義	7 回 8 回	4) 発表・検討 まとめ 看護技術の実践に向けて説明	GW・演習 GW・演習
2 回	2. 看護業務、チームの構成 仕事の組み立て方	講義・GW	9 回 10 回	1. 社会人基礎力について 2. 多様な人々と関わって 仕事をするための能力	講義 講義
3 回	3. 優先順位とは 1) 患者の理解 2) 必要な看護援助の理解 3) 複数事例における 優先順位の理解	講義・GW	11 回 12 回	「臨床実践能力」と「社会人基礎力」の関係	
4 回	4. 複数事例を受け持つ時の 考え方 1) 行動計画立案 2) 優先順位の考え方 3) 時間管理について 4) 倫理的配慮について	講義	13 回 14 回 15 回	1. 看護技術の実践 1) 援助計画 2) ペアリング 3) 実践 4) 評価修正 5) まとめ	演習 演習 演習 演習 演習
5 回 6 回	5. 複数事例を受け持つとは 1) 事例で考える 2) 根拠を考える 3) 看護計画を考える	演習 演習			
評価方法	レポート評価 100 点		教科書	講師資料	